
甘くないチョコレート

M

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

甘くないチョコレート

【著者名】

ZZマーク

N4898B

【作者名】

M

【あらすじ】

バレンタインデーなどどこ吹く風・・・そんなあの男にも、今年、チョコレートが届いた・・・

今日はバレンタインデー。

ただし、この男はそんな物が何だといわんばかりに、今日も競馬場に行つていた。

「依頼人も来ないし、町へ繰り出すか！」

とはその男・・・小五郎の弁であるが、コナンも蘭も学校へ行つているといつのに留守にしていては、来る依頼も来なくなるに決まつている。

まずポアロで一服、パチンコ店と雀荘を梯子して、さうに新聞片手にメインレース。

そして、今帰つてきた。

「くそーっ！最近「カミナリボーア」は調子いいからそろそろ賭けてやるかと思ったのにーっ！！」

カミナリボーアの今日の騎手は、いつもの「谷豊」氏ではなかつたらしに。健闘したものの2位に終わった。

ぶつぶつと不満を言いながら、小五郎は事務所のドアに手をかけた。開けようとすると、何かがドアにぶつかつた。

足元を見ると、ラッピングされた小さな箱。

「・・・何だこりや？」

かがんで箱を持ち上げる。

「・・・ああ、今日はバレンタインだったっけ？」

今頃思い出す男。

「・・・といつ事は、チョコだよな？・・・誰からだ？蘭はまだ学校だし・・・」

鍵を開けて中に入りながらぶつぶつと呟く。

「ま、まさか・・・」

いきなり顔が緩んだ。

「もしかして、オレのファンの女の子・・・？」

鼻の下も伸びっぱなし。

「ああ、もしかしてもしかすると、愛しのマークわんわん・・・」

小躍りまでは始めた。

「ああ、きつとこのチョコを握り締めて、ドアの前で待っていたんだろうな・・・温かく迎えてやれなくて『めんよマークわんわん・・・誰もそんな事言つてないのに。』

「きつとこのチコを開けると、手紙も入っていた。

「おお！？』これは愛のメッセージ！？『大好きな小五郎さんへ』なんて書いてあつたりしてー』

手紙を抜き取ると、表に書いてある文字をまじまじと見つめた。

わりとカチッとした、見覚えのある文字で一言。

『あなたへ』

「・・・なあああああつーーー？」

爆弾でも見つけたかのよひこ、小五郎はチョコを机の上において後ずさりした。

「え、英理い！？」

明らかにおびえている。

「・・・なんだよ！期待しちまつたじゃねーかー！」

いくらか気を鎮めた後、もう一度チョコと手紙を手に取った。手紙を開ける。

『あなたへ

留守だったから置いておいたわ

どうせパチンコにでも出かけたんでしょう？』

「ちくしょー！…当たってやがる！…」

そう言いながらチョコの入った箱を開けにかかり、手紙も同時に読み進める。

『バレンタインだから、チョコをあげるわ

ありがたく受け取りなさいよー』

「・・・余計なお世話だつての」

『さうそう、そのチョコせね、ジゴバのチョコレート……』

「おっ！いいじゃねーか」

箱のふたを開けた。

・・・を使って、私が手作りしたの』

「・・・くわ――つ――！」

訴のわからなし叫び声をあけて手紙を投げる。

「なんでそんな余計な事をするんだよー? 既製品をくれ、既製品を

・・・せえせえと荒い息をしながら手紙を拾い上げる
・・・結局読むのか。

『まあ、とにかく食べてみて頂戴』

そこまで読んだところで、小五郎はチラリに眼をやった。

「…までよ、手作りチーズで言つても、いたん落かしたチヨウを、また固めるだけなんだよな?」

形はわりと綺麗だ。

材料はジゴバだし

そう呟いて小さいチョコを一粒手に取り、口の中に入れた。

今まで食べた事のない味だ。

甘くない。

かといつて苦くもない。

これは・・・

（一九四九年十一月一日）

小五郎は口を押さえて必死に苦しみに耐えていた。声が出ない。

口の中のチーズが溶けていくたびに広がる・・・塩の味

『チラシに、「塩を隠し味にしたチヨウ」ってのが載つてたから試してみたのよ』

(隠し味だと！？隠れてねえーーー！)

涙目になりながら、その一文を読んでいた。

（ああ、こいつなつたら水道水だ……）のチョコによつぱすつとマシだ
冷蔵庫を開ける。こいつに限つてミネラルウォーターがない。
（！）

船所の流し船で口をぬすき、何とか一命は取り留めた。

息を切らしながら、手紙を置いたテーブルに戻る。

『どう? 飛び上がるほど美味しいで、ビックリしたでしょ?』

「バー 口おおーー飛び上がるほどおそくて死ぬかと思つたぞーー」

この状況では仕方ないのかもしれない。

『味見はしてないけどね』

「だーつ！－なんでいつもそなんだ！？自分で味見しろ、味見を

「...」

『カカオポリフェノールって、わりと体にいいらしいわよ』

「このチヨコは体に悪い...絶対悪い...塩分取りすぎちまうだら...高血圧になつちまつだら...が...」

『メタボリックシンдроумって言葉知つてる?』

「こちが聞きてー...お前がメタボリックシンдроумの原因になるだら...が...」

『蘭もいるんだから、体には気をつけることね』

「ここの作ったお前が言つた...お前がメタボリックシンдроумになつたら、恨むぞ...」

『まあ、これからもじょりくは帰らなこからね 英理』

「帰つてくんなー...」

肩で息をしながら、残りのチヨコをどうつかと考えていた時、手紙の裏にも文字が描いてあるのに気がついた。

『P・S・気持ちは込めたんだからね?』

「...」

小五郎はふつと笑つた。

「バー口オ・・・『ひつじ』『氣持ひ』だつて書つんだ・・・？」

憎まれ口をたたきながらも、顔は嬉しそうだった。

「まつめつけよな、セツヒンヒツ・・・？」

しばらくそんな気分に浸っていた時だった。

「おじさん、ただいまー。」
その時「ナン」は、小五郎が、
(よくぞ帰ってきた！)
と小さくガツッポーズをしていたのに気がつかなかつた。

「おー帰つたか、「ナン」！」

「おじさん、それ何？」

指差したのはチョコの入つた箱。

「チヨ ハニーートだー 食うか?」

「うんー。」

と言つて手を伸ばしかけたその時、

『あなたへ』

とこゝ見たことのある字が田に留まつた・・・・・

「や、やつぱりやめとくー。」

「な、なんでだよ?」

「それ・・・・英理おばさんから・・・・でしょ?」

(あつ、ばれたか・・・)

「おじさん宛ての、心のこもつたチヨ ハニーートだからわ・・・・ボク
が貰うわけにはいかないよ!」

「てめえ、上手い事言つて、食べたくないんだりー? おすそ分けだ、
食べーーー。」

「やだーーー!」

「つむせえ、道連れだーーー!」

蘭が帰つてくるまで、事務所内の壮絶な戯じつとは続いていたとい
う・・・・

「ただいま、栗山さん！」

「ああ、先生！」

「一やー」

「『ロちゃんも、ただいま』」

英理はお気に入りのロシアンブルーを抱き上げた。

「ずいぶんご機嫌ですけど、どちらに行かれてたんですか？」

緑の問いかけに、英理は悪戯っぽい笑みを浮かべた。

「ナ・イ・シヨ」

「・・・」

「さあ、仕事仕事」

いつにない表情を見た緑はきょとんとしていたが、やがて一やっと笑った。

（ダンナの所だなあ？）

「先生、もうすぐ復縁ですかあ？」

「ん？ 何か言つた？」

「なんでもありませーん」

数分後、二人は二口二口笑いながらパソコンに向かっていた。ゴロはと言えば、紙くずでサッカーを始めていた。

(後書き)

作者より　どうも、短編を投稿してみました、バレンタインチョコをあげる相手がいないMあります（＾＾；）。

えーと、いくつか思いついた短編用のネタの内、これがタイムリーなものだったので、1番に投稿してみました。

バレンタインがテーマなのにかなりギャグ路線に突っ走りますが、そういう性分なもので（＾＾；）

実際にチラシに塩入りチョコレートって載つてたんですよ。で、それを英理に作らせてみました。ありがとうございます（＾＾；）。

そもそも、これを入れた5本くらいの短編集として、連載しようかと思ってたんですが、前述の理由により一足先に出しました。

残り4つも完成次第、短編として投稿する事にします。ただし、残りのどれも、こういう、『恋愛とギャグが3：7』という雰囲気だという事を頭に入れてください。（＾＾；）

連載も頑張ります。それでは～。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4898b/>

甘くないチョコレート

2010年10月11日18時45分発行